



### 世紀の信徒発見

上五島・長崎巡礼⑦

今回、上五島の二十九のカトリック教会のうち十八教会を訪ね

た。その巡礼記の序として六回にわたって五島列島の隠れキリシタ

ンの時代的背景などを思いつくままに書いてきたが、その締めくくりにしてカトリック教会の歴史上「世紀の信徒発見」といわれる長崎浦上の隠れキリシタ



信徒発見のサンタ・マリア像

の発見について書く。明治時代が始まる三年前の一月六日、長崎浦上村の隠れキリシタ人は外国人のため

に建てられた大浦天主堂のフチジャン神父に「私たちはあなた様と同じ心でございます。サンタ・マリアの御像はどこ？」と信仰を告白した。

220

激しいキリシタン弾圧が続いた江戸時代、一人の司祭もいない中、二百五十年間におたつてキリスト教信仰を守り通した隠れキリシタンの発見は、世界宗教史上の奇跡とも言われる出来事である。浦上の隠れキリシタたちは教会も神父もない状況の中で「三つの伝承」を信仰のよりどころとしていた。

この近くでは萩に三百一人、広島百七十七人、津和野百五十三人。毎年五月三日の津和野の乙女峠祭はこの事件をしのぶものである。

五島列島の隠れキリシタンも同様で、信徒発見から三年後の一八六八年、久賀島(ひさかじま)で二十三人が捕らえられたのを契機

に迫害は五島列島全域に及び、一八七三年(M6)のキリシタン禁制の高札の撤去まで迫害は続いたのである。最後になぜ、五島列島という狭い地域にたくさんのカトリック教会が存在するのかをまとめておきたい。



殉教地、津和野乙女峠のマリア堂